一般社団法人 人文地理学会

2023 年　定時社員総会　【資料】確定版

日　時：2023 年 11 月 25 日（土）　16 時 20 分～17 時 30 分
会　場：法政大学 市ケ谷キャンパス 富士見ゲート 4 階 G403

開会宣言
定足数確認
議長選任
議事録署名人選出

議　事：

＜報告事項＞

1．2022/23 年度　事業報告　・・・・・・・・　1～11 ページ
2．2023/24 年度　事業計画　・・・・・・・・　12～14 ページ
3．2023/24 年度　収支予算　・・・・・・・・　15 ページ
4．その他

＜審議事項＞

1．2022/23 年度　決算　・・・・・・・・・・・・　15～20 ページ
2．その他

閉会宣言
議長解任

＊定時社員総会は会員総会を兼ねています。

定時社員総会終了後、第 23 回人文地理学会学会賞受賞者の表彰式が行われます。

2022/23 年度事業報告

1．庶務委員会　（吉田容子 常任理事）

① 会員の動向　（2023 年 9 月 30 日現在）

年　度	2016	2017	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23
会　員	1,220	1,221	1,165	1,164	1,122	1,136	1,109 （国内 1,104, 海外 5）
団体会員	144	144	140	137	137	137	134
（学生）	(164)	(140)	(130)	(125)	(116)	(118)	(110)
入　会	36	33	32	31	28	39	38
（学生）	(21)	(22)	(20)	(20)	(14)	(22)	(26)
退　会	22	33	40	37	24	30	38
（学生）		(7)	(4)	(8)	(4)	(3)	(4)
資格喪失	－	54	－	39	－	29	－

＊ 資格喪失は隔年（名簿発行年）

② 交換・寄贈雑誌　（2023 年 9 月 30 日現在）

国内交換雑誌　42 誌　　海外交換雑誌　9 誌

③ 2022/23 年度常任理事会・社員総会・理事会の開催

常任理事会（定例 5 回，臨時 2 回）

社員総会（ 1 回）

理事会［8 回：10 月 15 日(オンライン)，11 月 19 日（対面＋オンライン），
12 月 17 日（オンライン），1 月 15 日（臨時，オンライン），
3 月 13 日～17 日（臨時，書面），4 月 8 日（対面＋オンライン）
7 月 8 日（対面＋オンライン），9 月 23 日（対面＋オンライン）］

2．会計委員会　（加藤政洋 常任理事）

① 会費納入状況　（2023 年 9 月 30 日現在）

会員数(個人)　1,109 名（うち 海外会員 5 名）

○（国内）会員　1,104 名

第 75 巻まで完納: 907 名(永年会員 65 名含む 納入率 82%)

第 74 巻まで納入（1 年未納）: 145 名(内，住所不明 2)

第 73 巻まで納入（2 年未納）: 31 名(内，住所不明 1)

第 72 巻まで納入（3 年未納）: 21 名(内，住所不明 9)

○海外会員　5 名
（うち 1 名は永年会員，2 名は第 75 巻まで完納）○永年会員　65 名
（2022/2023 年度中の移行者 5 名）

② **研究部会会計報告**（2023 年 9 月 30 日現在，単位：円）

研究部会	予 算	支 出	残 高
歴史地理	80,000	3,1458	48,542
地理思想	80,000	72,223	7,777
都市圏	80,000	43,650	36,350
地理教育	80,000	12,000	68,000
観光空間	80,000	45,990	34,010

③ **国際地理オリンピックへの寄付**
10 万円を寄付した。

３．編集委員会　（藤井正 常任理事）

① **定期刊行の実現**
会誌『人文地理』は，第 74 巻第 3 号より第 75 巻第 2 号まで，定期刊行を実現した。

② **会誌編集状況**
別紙参照

４．集会委員会　（河原典史 常任理事）

①大会

1）2022 年人文地理学会大会（参加者数：285 名・うち非会員数 49 名）
佛教大学　紫野キャンパス　2022 年 11 月 19 日（土）～20 日（日）
11 月 19 日（土）：午前 エクスカーション（参加者数：15 名）
午後 特別研究発表 4 件，ポスター発表 7 件，
定時社員総会，学会賞表彰式

20 日（日）：一般研究発表 52 件（口頭発表 37 件・ポスター発表 7 件
公募セッション 8 件）
茶話会（参加者数：約 100 名）

2）2023 年人文地理学会大会

・11 月 25 日（土）～27 日（月）法政大学市ケ谷キャンパス

・学会ウェブサイトから告知するメーリングリストに登録後，Google Forms により参加登録（大会参加費は事前振り込み）

・懇親会は実施

・『2023 年人文地理学会大会研究発表要旨』は冊子体を作成

11 月 25 日（土）：午前 研究部会アワー5 件
午後 特別研究発表 4 件, 一般研究発表（ポスター発表 8 件），
定時社員総会・会員総会，学会賞授賞式，懇親会

11 月 26 日（日）午前・午後 一般研究発表 60 件（口頭発表 42 件，ポスター発表 8 件，公募セッション 3 組 10 件

11 月 27 日（月）：エクスカーション

② 例会

1）第 295 回例会（特別例会） 島根県立美術館ホール

2023 年 6 月 24 日（土）：シンポジウム

テーマ「地域多様性からみた地方の価値と未来像」，趣旨説明 1 件，個別発表 5 件，参加者数：約 200 名

2023 年 6 月 24 日（土）：ミニ・エクスカーション 参加者数：37 名
オプショナル・ツアー 参加者数：30 名

2023 年 6 月 25 日（月）：バス・エクスカーション 参加者数：39 名

③ 研究部会

1）歴史地理研究部会

第 161 回 歴史地理研究部会（第 143 回 地理思想研究部会と合同）

2023 年 2 月 11 日（土），2023 年 2 月 25 日（土）

佛教大学宗教文化ミュージアム・宗教文化シアター（佛教大学広沢キャンパス） 対面・オンライン併用 参加者数：2 月 11 日 51 名，2 月 25 日 55 名

2）地理思想研究部会

第 143 回 地理思想研究部会（第 161 回 歴史地理研究部会と合同）

2023 年 2 月 11 日（土），2023 年 2 月 25 日（土）

佛教大学宗教文化ミュージアム・宗教文化シアター（佛教大学広沢キャンパス） 対面・オンライン併用 参加者数：2 月 11 日 51 名，2 月 25 日 55 名

第 144 回 地理思想研究部会

2023 年 4 月 22 日 （土）

同志社大学今出川キャンパス 対面・オンライン併用 参加者数：29 名

3）都市圏研究部会

第 69 回　都市圏研究部会

2023 年 9 月 9 日（土）　キャンパスプラザ京都

対面・オンライン併用　参加者

4）地理教育研究部会

第 54 回　地理教育研究部会（兵庫地理学協会大会と共催）

2023 年 8 月 6 日（日）　大学共同利用施設UNITY（神戸市内）参加者数：29 名

5）観光空間研究部会

第 4 回　観光空間研究部会

2023 年 7 月 29 日（土）　オンライン　参加者数：23 名

第 5 回　観光空間研究部会

2023 年 8 月 5 日（土）　オンライン　参加者数：42 名

④ 2024 年の大会と例会（特別例会）の予定

1）2024 年大会

2024 年 11 月 23 日（土）・24 日（日）　近畿大学東大阪キャンパス

2）第 296 回例会（特別例会）

2024 年 6 月 29 日（土）・30日（日）　開催幹事校・鹿児島大学

５．企画委員会　（山﨑孝史 常任理事）

① 第 23 回人文地理学会 学会賞

・2022 年 12 月に学会賞候補者選考委員会委員を以下の通り委嘱した。※印は委員長

［学術図書部門・学術図書部門奨励賞］

箸本健二（早稲田大・継続）※，　島津俊之（和歌山大・継続），

新井祥穂（東京農工大・新任），　森正人（三重大・新任）

［一般図書部門］

野中健一（立教大・継続）※，　柴田陽一（愛知県立大・継続），

祖田亮次（大阪公立大・新任），　筒井由起乃（追手門大・新任）

［論文部門］

網島聖（佛教大・22 年の大会会場校ゆえ 1 年間の離任後再任）※，

松田隆典（滋賀大・新任，ただし半数改選を維持するため一年任期），

大呂興平（大分大・新任），　関村オリエ（東京女子大・新任）

・2023 年 3 月に各部門の学会賞候補者選考委員会はオンラインで第 1 回会議を開催し，9 月中旬の答申までの選考手順について意見交換がなされた後，具体的に選考過程に入った。

・2023 年 9 月に各部門の学会賞候補者選考委員会から受賞候補者について答申があった。受賞候補者および候補図書は以下の通りである。なお，本答申については，2023 年 10 月

14 日の第 5 回理事会で承認された。

［学術図書部門］
受賞候補者：竹中克行
受賞対象図書：『地中海都市：人と都市のコミュニケーション』東京大学出版会，2021 年，353 頁。
［学術図書部門奨励賞］
受賞候補者：加藤晴美
受賞対象図書：『遊廓と地域社会：貸座敷・娼妓・遊客の視点から　増補版』清文堂，2022 年，315 頁。
［一般図書部門］
受賞候補者：土屋 純
受賞対象図書：『地理学で読み解く流通と消費：コンビニはなぜ集中出店するのか』ベレ出版，2022 年，285 頁。
［論文部門］
該当なし。

② 地理学連携機構関連

・2023 年 3 月 24 日に第 14 回 地理学連携機構・地理関連学会連合・人文･経済地理関連学会協議会の合同総会が東京都立大学南大沢キャンパスで開催され，機構ならびに関係学協会の活動が報告されるとともに，2023 年度の機構の活動方針が審議･了承された。2023 年度の人文地理学会関係の機構委員としては，幹事に山﨑孝史企画常任理事が就任しており，機構の事務局は 2024 年 3 月まで日本地理学会が担当している。なお，人文･経済地理関連学会協議会議長に矢野桂司会長，副議長に山﨑が就任している。

③ 若手研究者国際会議派遣助成

・2022 年 12 月に若手研究者国際会議派遣助成選考委員会委員を以下の通り委嘱した。
※印は委員長
小田宏信（成蹊大学・留任 3 年目）※，　影山穂波（椙山女学園大学・留任 2 年目），池口明子（横浜国立大学・新任）

・同年 11 月に公募が開始され，2023 年 2 月の締切までに 2 名の応募があり，選考委員会にて審議され，その答申は 2023 年 4 月 8 日の第 2 回理事会で承認された。助成採択者の発表タイトル・研究集会名は以下の通りである。

髙橋昂輝 会員
助成対象会議：
IGU Thematic Conference: The Ocean and Seas in Geographical Thought
開催地：ミラノ―ビコッカ大学（イタリア・ミラノ）
開催期間：2023 年 6 月 6 日～9 日

穂積謙吾 会員

助成対象会議：

IGU Thematic Conference: The Ocean and Seas in Geographical Thought

開催地：ミラノ―ビコッカ大学（イタリア・ミラノ）

開催期間：2023 年 6 月 6 日～9 日

当該大会は予定通り開催され，会議後に採択者より規程に沿った報告書が学会に提出された。

６．広報委員会　（山﨑孝史 常任理事）

① 学会ウェブサイトの運営

・学会の大会・例会・研究部会などの活動や，他学会などからの公募やセミナーなどの情報を，学会ウェブサイトを通して会員および社会に公開した。

・集会情報に関しては，広報の迅速化を図るために，各委員会・研究部会のウェブ担当者が記事を直接公開できるよう記事投稿の手順を改訂した。

・関連して，記事の投稿・更新の情報が自動的に広報委員全員に通知される機能，および各記事に更新年月日が自動表記される機能をウェブサイトに加えた。

② 学会メーリングリストの運営

・①において公開された集会関連情報は記事投稿者が広報委員会に依頼せずともメーリングリストでも配信するよう手順を改訂した。

・希望者による自主登録であった購読方式を，会員が学会事務局に通知したアドレスを原則的に登録する方式に改訂した。同時に登録アドレスを全面的に更新し，会員に対するメールによる広報効果を高めた。

③広報活動

・大会を中心とする集会開催，学会動向，関連他学会の活動などを，学会ウェブサイトならびに学会メーリングリストを通して，引き続き積極的かつ迅速に会員・社会に広報するよう努めている。

2022/23 年度 編集委員会 補足資料

１）2022/23 年度編集会議の実施状況

・Zoom によるオンライン会議
第 1 回会議（1/7），第 2 回会議（3/18），第 3 回会議（5/13），第 4 回会議（学界展望合評会，6/10），第 5 回会議（7/8），第 6 回会議（9/9），第 7 回会議（11/11）
（2021/2022 年度よりオンライン会議に移行済）

２）『人文地理学会大会研究発表要旨』の編集

・2020年に導入された閲読制を引きつぎ，大会研究発表要旨の受付後入稿までの間に，集会委員と編集委員（大会実行委員）で分担して，主に形式上の原稿チェックを，また校正確認もおこなった。
・J-STAGEについては，大会終了後に登載作業に入る予定。

３）『人文地理』編集倫理規程の作成

・『人文地理』の著者，査読者，編集委員会に関する編集倫理規程の作成について，2022年10月理事会で承認されたものに利益相反規程を補い（2023年4月理事会承認），人文地理学会倫理綱領とともに英訳もおこなった。

４）国際化の対応

・2021/22 年度から引き続き，Elsevier 社（Scopus）と Clarivate Analytics 社（ESCI）との継続的な窓口役（コレスポンデント）を島津俊之会員に依頼している。コレスポンデントが公的に利用できるメールアドレスを作成し，引き続きさらなる国際化に向けた取り組みの企画を検討している。
・クラリベイト社（web of science）の収録審査が第 2 段階でリジェクトされ再申請の連絡（2023 年 3 月 1 日）を受けたことから，指摘された点への対応をすすめるためタスクフォースを設置し（2023 年 3 月の書面による臨時理事会で承認），2023 年 4 月の理事会で承認されたように，編集倫理規程（日本語版・英語版）とウェブサイトの整備（学会ウェブサイトと J-STAGE とのリンクの充実）をクラリベイト社(web of science)の収録再審査の申請にむけて進めた。両英語版については，理事会から一任された常任理事会（2023年10月）において承認された。

2022/23年度 編集委員会事業報告(別紙)

『人文地理』編集状況

	11/12	1/7	3/18	5/13	7/8	9/9	合計	2022/23	2021/22	2020/21	2019/20	2018/19	2017	2016
論説 新規	0	3	2	2	2	2	11	16	15	22	23	31	18	23
論説 再投稿	1	2	2	0	0	0	5							
展望 新規	0	0	0	1	0	2	3	4	1	2	5	1	0	1
展望 再投稿	0	0	0	0	1	0	1							
研究ノート 新規	2	0	1	0	0	0	3	19	30	19	22	14	14	28
研究ノート 再投稿	2	7	4	1	1	1	16							
フォーカス 新規	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	7	3	1	6
フォーカス 再投稿	0	0	0	0	0	0	0							
合計	5	12	9	4	4	5	39	39	47	46	57	49	33	58
論説 受理	0	1	1	0	0	0	2	2	2	6	4	5	4	5
論説 要再投稿	1	1	0	0	0	0	2	2	6	11	15	23	9	11
論説 返却	0	3	3	2	2	2	12	12	7	5	4	3	5	7
展望 受理	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	0	1
展望 要再投稿	0	0	0	1	0	1	2	2	0	1	3	0	0	0
展望 返却	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	1	0	0
研究ノート 受理	1	1	2	1	0	1	6	6	6	3	5	2	5	6
研究ノート 要再投稿	0	5	2	0	1	0	8	8	13	15	15	7	5	18
研究ノート 返却	3	1	1	0	0	0	5	5	11	1	2	5	4	4
フォーカス 受理	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	2
フォーカス 要再投稿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	1	0	3
フォーカス 返却	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1
合計	5	12	9	4	4	5	39	39	47	46	57	49	33	58

・原稿種別変更における再投稿の場合，当初種別では「返却」，再投稿時の種別では「新規」として計上した。
・副査は概ね編集委員外の会員に依頼した。
・ 2023年2月のメールによる臨時編集会議（ノートの投稿1本で受理1本）は1月の編集会議と合算した。
・2022/23年度の年間投稿数は39本で，例年より少ない。種別でみると展望への投稿が近年より多くなっている。
論説の投稿論文のレベルと5月 会議以降の投稿数の少なさは気にかかる。

『人文地理』論文受理・返却率

	2022/23	2021/22	2020/21	2019/20	2018/19	2017	2016		2022/23	2021/22	2020/21	2019/20	2018/19
論説受理率	12.5%	13.3%	27.3%	17.4%	16.1%	22.2%	21.7%	論説返却率	75.0%	46.7%	22.7%	17.4%	9.7%
展望受理率	25.0%	0.0%	50.0%	20.0%	0.0%	ー	100.0%	展望返却率	25.0%	100.0%	0.0%	20.0%	100.0%
研究ノート受理率	31.6%	20.0%	15.8%	22.7%	14.3%	35.7%	21.4%	研究ノート返却率	26.3%	36.7%	5.3%	9.1%	35.7%
フォーカス受理率	0.0%	0.0%	33.3%	28.6%	33.3%	0.0%	33.3%	フォーカス返却率	0.0%	100.0%	33.3%	0.0%	33.3%
全体受理率	23.1%	17.0%	23.9%	21.1%	16.3%	27.3%	24.1%	全体返却率	46.2%	42.6%	15.2%	12.3%	20.4%

・2022/23年度は前年度に続き返却率が高くなった。特に論説の返却率が著しく高いが、投稿数の少なさが影響していると考えられる。なお、この返却数の中には、研究ノートとしての再投稿論文等も含まれる。

『人文地理』各号発行状況

	総頁数	論説	展望	研究ノート	フォーカス	書評	その他
74巻3号	189	0	134	18	0	16	21
74巻4号	89	0	0	59	0	14	16
75巻1号	118	22	0	21	0	12	63
75巻2号	93	23	0	44	0	10	16
2022/23年度合計	489	45	134	142	0	52	116
2021/22年度合計	476	95	141	82	0	58	100
2020/21年度合計	501	96	110	104	38	54	99
2019/20年度合計	450	134	69	35	32	38	139
2018/19年度合計	460	110	67	67	0	82	134
2017年度合計	563	115	69	155	32	36	156
2016年度合計	534	188	96	54	16	38	142

・2022/23年度の総頁数は489ページで，近年では比較的多いものとなっている。
・2022/23年度はさらに論説のページが少なかったが、研究ノートのページ数は近年より多くなっている。

［学術図書部門］

2023 年 9 月 11 日

一般社団法人　人文地理学会長　矢野桂司　殿

第 23 回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者選考委員会
委員長　箸本健二
委員　新井祥穂，島津俊之，森　正人

本委員会は，第 23 回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者として下記の会員に決定したので，選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

受賞候補者：竹中克行
受賞対象図書：『地中海都市：人と都市のコミュニケーション』東京大学出版会，2021 年，353 頁。
選考理由：

本書は，地中海の歴史的都市が，グローバル都市とは一線を画した変遷を重ねてきたことに着目し，その実態を詳細なフィールド調査を通じて考察した力作である。

全体は，序章，第１章から第 13 章，終章から構成されている。まず序章では，バルセロナ近郊の古都タラゴナを躍動する地中海都市の象徴と位置づけつつ，都市空間に積層する時間と，その蓄積に編集の手を加えつつある人々の営為から，人と都市とのコミュニケーションの作法を読み解くという本書の論点が提示される。続く第１章から第 13 章はⅠ～Ⅳの４部に分けられる。まずⅠ．では，序章に引き続きタラゴナをフィールドとして，古代から連綿と続く時代の積層が都市空間でいかに可視化されてきたのか（第１章），時空を繋ぐ代表的な建築に言及（第２章）し，さらにタラゴナの周辺都市との比較を通じて，都市アイデンティティの表出に果たす言語行為や視覚メディアの働きを示しながら（第３章），議論が展開する。

続くⅡ．では，サルディニア島の主邑であるカリアリをフィールドとして，大陸諸勢力の強い影響を受ける中で独自の性格を醸成していった地中海都市の特性が明らかにされる。まず，地中海の都市文化を特徴づける複合性が歴史的文脈の中で指摘され（第４章），こうした文化的特徴を街路や広場など日常性と密接に関係する空間を通じて実証的に説明するとともに（第５章），カリアリを取り巻く中小都市での祭りの表象を踏まえて，近代国家による分断を超えて継承された地縁の存在を描き出している（第６章）。またⅢ．では，カトリック教徒の巡礼の地であるサンティアゴ・デ・コンポステラ（第７章，第８章），イスラーム・スペインの中心都市の一つであるセビリア（第９章）の歴史的建造物の精査を通じて，地中海世界の二大宗教が都市の成立，発展に及ぼした影響を考察している。

そしてⅣ．では，再びタラゴナ，カリアリ周辺のいくつかの中小都市をフィールドとして，都市をめぐる政策，制度の働きを評価する。具体的には，カタルーニャの小都市レウスにおける歴史地区再生と政策選択（第 10 章），住民の生活に根ざした歴史地区の事業者と観光客による季節差が大きい港地区との事業者の対照（第 11 章），タラゴナに近い中山間都市ファリセットを舞台とする共同空間の位置づけと都市空間における公と私の接合（第 12 章），そしてサルディニアの２つのニュータウンという近代の計画都市に見られる時間の積層（第 13 章）などが指摘される。最後に終章では，ここまでの分析結果をふまえて，人と都市とをつなぐメディアの多様性，都市を取り巻く地域的文脈の多様性，都市という物質的空間から人が受ける影響，そして蓄積された歴史から展望する未来という４つの論点を提示している。

このように本書は，著者の約 10 年間に及ぶ地中海都市の研究成果の集大成であり，地中海都市が多層的なコミュニケーションによって再生産されてきた，その歴史的営みを描くものである。と同時に本書は，画一化する現代の大都市への対抗軸として，地中海都市のもつ意味の大きさを再認識させるものであり，このことを丹念な実態分析を通じて明らかにした著者の姿勢は評価に値する。

以上，本書は人文地理学会学会賞（学術図書部門）の授与にふさわしい優れた著作であり，著者をその候補者として推薦する。

［学術図書部門奨励賞］

2023 年 9 月 11 日

一般社団法人　人文地理学会長　矢野桂司　殿

第 23 回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者選考委員会
委員長　箸本健二
委員　新井祥穂，島津俊之，森　正人

本委員会は，第 23 回人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）候補者として下記の会員に決定したので，選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

受賞候補者：加藤晴美
受賞対象図書：『遊廓と地域社会：貸座敷・娼妓・遊客の視点から　増補版』清文堂，2022 年，315 頁。
選考理由：

本書は，遊女・娼妓・貸座敷経営者から遊客に至る，遊廓をめぐる人の営為に関する視点と，立地や景観を主体とする遊廓の形態論的視点を統合し，多くの一次資料を駆使して近代日本の地方都市における貸座敷（とその集合体である遊廓）の存在がいかなるものであったかを捉えようとした意欲作である。

全体は，第Ⅰ章から第Ⅴ章，2 つの補論，結論にあたる第Ⅶ章から構成される。まず序章に相当する第Ⅰ章では，形態論的・社会構造的研究と女性史的研究とを別個のものとして捉えてきた従前の遊廓研究に対して，この両者を統合し，遊廓のありようを総体的に考察すべきとする著者の問題意識が明示される。続く第Ⅱ章は，東北及び関東地方を対象として，近世後期に遡る遊所の分布を概観するとともに，近代地方都市の中で廓が所在した都市の類型化を通じて，その成立要件を軍事都市，各府県の中で比較的高い中心性を持つ中規模都市，郡域レベルあるいはそれ以下の中心地となる小都市に分類した。

第Ⅲ章から第Ⅴ章までは，近代期における地方遊廓の展開に関する具体的事例を取り上げ，近代期の遊廓の存在形態を実証的に解き明かしていく。このうち第Ⅲ章は明治前期の山形県米沢市を取り上げ，貸座敷における経営者や遊客，娼妓の存在形態を，遊廓移転の影響や周旋業者を通じた身売りのネットワーク等から検討した。第Ⅳ章は大正期の栃木県烏山市を事例として，明治中期に新設された遊廓の景観及び空間構造と地域社会との関わりを考察すると同時に，貸座敷における男性遊客と娼妓の存在形態，とりわけ娼妓の厳しい労働環境を，資料分析を通じて明らかにした。また第Ⅴ章は幕末期から明治中期までの神奈川県横須賀市を事例として，とりわけ遊廓と貸座敷の開発者・経営者の動向から遊廓の展開を示し，軍隊と遊廓との強い関係性を説明した。その上で第Ⅵ章は，上記の３都市の事例を比較検討し，近代地方都市における遊廓の成立過程とその特質とを実証的に整理した。

第Ⅵ章と第Ⅶ章の間に挿入された２つの補論では，第Ⅲ章から第Ⅴ章で取り上げた３都市との比較を念頭に，瀬戸内大崎下島御手洗（広島県呉市）と松岸（千葉県銚子市）の事例が検討された。このうち補論１（御手洗）は，商港機能が低下した近代の御手洗において，「産業」としての遊廓の存在がより重視されていく過程を示した。また補論２（松岸）では，非日常的な遊興空間としての遊廓が，日常化・大衆化した私娼街に置き換えられた点を指摘している。最後に終章に相当する第Ⅶ章は，地方都市における近代遊廓の成立過程と特質を，地域社会との強い結びつきの中でとらえ，近代公娼制度の実体化，貸座敷の導入とその意義，遊客の存在形態，娼妓の労働と生活という４つの切り口から近代遊廓の成立を説明した。

このように本書は，遊廓という空間について，それを成立せしめる地域社会との関係からその多様性を措定し，遊客の経済的属性とそれに対応した経営，地域社会への位置づけを，膨大な資料の丁寧な分析から論じる労作であり，とりわけ，遊廓の立地分析より「都市からの排除された空間」との定説に疑念を呈する姿勢は評価に値する。

以上，本書は人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）の授与にふさわしい優れた著作であり，著者をその候補者として推薦する。

[一般図書部門]

2023 年 9 月 11 日

一般社団法人　人文地理学会長　矢野桂司　殿

第 23 回人文地理学会学会賞（一般図書部門）候補者選考委員会
委員長　野中健一
委員　柴田陽一，祖田亮次，筒井由起乃

本委員会は，第 23 回人文地理学会学会賞（一般図書部門）候補者として下記の会員に決定したので，選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

受賞候補者：土屋 純
受賞対象図書：『地理学で読み解く流通と消費：コンビニはなぜ集中出店するのか』ベレ出版，2022 年，285 頁。
選考理由：

本書は，流通・消費からみた日本地理について精緻かつ丁寧に記述し，かつ一般の読み手を意識したわかりやすい表現と，地理への興味を深める工夫のなされた書物である。コンビニ，スーパーマーケット，ファミレス，チェーンストア，ネット通販など，現代の私たちの生活と切っても切り離せない流通と消費事象が取り上げられる。それを軸に 20 世紀から 21 世紀にかけての日本のダイナミズムを産業や生活文化の織りなす景観からとらえ，そのプロセスが丁寧に分析的に読み解かれる。

構成は，人口移動と地域市場，都市階層と買い物空間，国土空間の圧縮と流通革新，高齢化社会と流通・消費，地域性の消失・再構築，持続可能な社会と流通・消費という 6 つのテーマから成り，地理学の観点で現象を捉えながら問題点と注目点を明示して地理学的な方法を用いて紐解くように記述される。

興味を惹く各章のタイトルのもと，平易な文章で記述され，分布図や流線図など本文の記述を読者がイメージしやすくなるよう工夫されている。また，各章は，「トピックス」と題するコラムで補完され，そのタイトルは読者の目を惹くよう工夫され，身近な話題を多方面に発展させている。

このような多くの内容を盛り込みながらも，読者の関心のままにどこから読んでも個別に内容を理解できる。通読すれば，流通と消費の動向の理解にとどまらず，それをふまえて日本地理の過去から現在，そして将来についても考えをめぐらせることができる。

地理学用語の適切な使用により地理学の見方・考え方が読者に入り込み，読者の地理学への興味・関心を深めることに大きく貢献することが期待される。

以上の点から，本書は地理学の関連分野や一般の読者に対して，地理学の方法による現実理解を広くアピールする内容をもち，地理への興味を深める工夫のなされた優れた著作であると判断され，本書を人文地理学会学会賞（一般図書部門）の授与にふさわしい著作として強く推薦する次第である。

[論文部門]

2023 年 9 月 21 日

一般社団法人　人文地理学会長　矢野桂司　殿

人文地理学会学会賞（論文部門）候補者選考委員会
委員長　網島　聖
委員　大呂興平，関村オリエ，松田隆典

本委員会は，第 23 回人文地理学会学会賞（論文部門）候補者について慎重に審議した結果，該当なしとする。

【 2023/24年度 事業計画】

2023.11.定時社員総会

月	理事会	大会	編集	例会・部会	他学会	前年度
2023年 10月	7：常任理事会⑥ **14：理事会⑥**		***75巻3号発行***	21-22：地理教育（共催 全国地理教育学会）大阪商大	14-15：経済地理学会地域大会(愛媛大南加記念ホール) 21-22：東北地理学会(秋田大) 28-29：GIS学会大会(電気通信大)	8：常任理事会 15：理事会 15：東北地理学会大会(ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ) 22-23：経済地理学会地域大会(岡山大) 30-31：GIS学会大会(沖縄産業支援ｾﾝﾀｰ／ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ)
11月		25-27：大会（法政大）	11：第7回	25：大会部会アワー	25：地理科学学会（広島大）	6：地理科学学会(ｻﾃﾗｲﾄｷｬﾝﾊﾟｽひろしま) 12：編集委 19-20：大会（佛教大） 19：理事会
12月	9：常任理事会① **16：理事会①**		***76巻4号発行***			10：常任理事会 17：理事会
2024年 1月		大会準備委（日程調整中）	6：第1回			7：編集委 15: 理事会(臨時／ｵﾝﾗｲﾝ) 28: 大会準備委
2月						７：地理教育(地理教育研修会)ｵﾝﾗｲﾝ 11・25：地理思想・歴史地理(共催 佛教大学宗教文化ミュージアム)佛教大広沢ｷｬﾝﾊﾟｽ/ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ
3月	30：常任理事会②		16：第2回 ***76巻1号発行***		19-21：日本地理学会大会(青山学院大)	18：編集委 13-17: 理事会（臨時／書面） 25-27：日本地理学会大会(東京都立大)
4月	**6：理事会②**					1：常任理事会 8：理事会 4-6：IGU 大阪テーマ会議(大阪公立大杉本ｷｬﾝﾊﾟｽ/ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ) 22：地理思想(同志社大今出川ｷｬﾝﾊﾟｽ/ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ)
5月			11：第3回		25-27：歴史地理学会大会（立命館大）	13：編集委 20-21：東北地理学会(東北大青葉山新ｷｬﾝﾊﾟｽ) 20-22：歴史地理学会大会(日本大) 27-28：経済地理学会(専修大神田ｷｬﾝﾊﾟｽ)
6月	29：常任理事会③		8：第4回（合評会） ***76巻2号発行***	29-30：特別例会（鹿児島大）		3：地理科学学会(広島大東広島ｷｬﾝﾊﾟｽ) 10：編集委(合評会) 17: 地理思想(同志社大東京ｷｬﾝﾊﾟｽ/ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ) 25-26：特別例会(島根県立美術館ホール)
7月	**6：理事会③**		6：第5回			1：常任理事会 8：理事会 8：編集委 29: 観光空間(ｵﾝﾗｲﾝ)
8月					24-30: IGU（ダブリン）	5：観光空間(ｵﾝﾗｲﾝ) 6：地理教育（共催 兵庫地理学協会大会）神戸市内 19-20：地理教育学会（宮城教育大） 28：大会発表申込締切
9月	14：常任理事会④ **21：理事会④**	大会準備委（日程調整中）	7：第6回		日本地理学会大会(南山大)	2:大会準備委 9：都市圏(ｷｬﾝﾊﾟｽﾌﾟﾗｻﾞ京都) 9：編集委 16-18:日本地理学会大会(関西大) 19：常任理事会(日本地理学会と日程重複のため) 23：理事会
10月	5：常任理事会⑤ **12：理事会⑤**		***76巻3号発行***			7：常任理事会 14：理事会 14-15：経済地理学会地域大会(愛媛大南加記念ﾎｰﾙ) 21-22：地理教育（共催 全国地理教育学会）大阪商大
11月		23-24：大会(近畿大)	9：第7回			11：編集委 25-27：大会（法政大）

12月16日（土）人文地理学会創立75周年記念祝賀懇親会

庶務委員会：2023/24年度会員名簿発行

会長候補者予備選挙，理事・監事予備選挙，会長予備選挙，代議員選挙

会計委員会：国際地理オリンピック寄付

企画委員会：2023/24年度 若手研究者国際会議派遣助成

第24回 人文地理学会 学会賞選考

＊６月29日の常任理事会は特別例会（鹿児島大）と日程が重なるため，会長・常任理事の間で日程調整をおこなう。

一般社団法人人文地理学会　代議員

（任期：2022 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日）

秋本　弘章	北川　博史	堤　　純	村田　陽平
淺野　敏久	金　　科哲	寺谷　亮司	村中　亮夫
網島　　聖	呉羽　正昭	土居　晴洋	森本　　泉
新井　祥穂	鍬塚　賢太郎	戸井田克己	矢野　桂司
荒木　一視	河本　大地	戸所　　隆	矢部　直人
荒又　美陽	古賀　慎二	長尾　謙吉	山内　昌和
池　　俊介	小島　泰雄	中澤　高志	山神　達也
池谷　和信	駒木　伸比古	中西　僚太郎	山口　　覚
井田　仁康	阪上　弘彬	中村　周作	山口　　晋
伊藤　達也	酒川　　茂	野中　健一	山﨑　孝史
岩崎　公弥	作野　広和	初澤　敏生	山下　博樹
上杉　和央	志村　　喬	服部　亜由未	山村　亜希
内田　忠賢	杉浦　真一郎	花岡　和聖	山元　貴継
宇根　義己	杉江　あい	濱田　琢司	山本　　充
大城　直樹	関戸　明子	原口　　剛	山本(有田)理佳
大西　宏治	祖田　亮次	氷見山　幸夫	湯澤　規子
大平　晃久	平　　篤志	福田　珠己	横山　　智
大呂　興平	高木　彰彦	福本　　拓	吉田　国光
岡橋　秀典	高橋　春成	藤井　　正	吉田　道代
小田　宏信	高橋　　誠	前田　洋介	吉田　容子
香川　雄一	高柳　長直	三木　理史	吉水　裕也
加藤　政洋	立見　淳哉	水野　一晴	和田　　崇
兼子　　純	千葉　昭彦	水野　真彦	渡辺　理絵
川口　太郎	土谷　敏治	溝口　常俊	
河原　典史	筒井　一伸	宮地　忠幸	以上 101 名
神田　孝治	堤　　研二	武者　忠彦	50 音順

一般社団法人人文地理学会　役員

（任期：2022 年定時社員総会～2024 年定時社員総会）

会長　矢野桂司

常任理事　吉田容子（庶務）　加藤政洋（会計）　藤井　正（編集）
河原典史（集会）　山﨑孝史（企画・広報）

理事　池谷和信　今里悟之　小方　登　加藤政洋　河原典史　鍬塚賢太郎
古賀慎二　西村雄一郎　濱田琢司　藤井　正　藤田裕嗣　二村太郎
三木理史　水野真彦　村田陽平　矢野桂司　山神達也　山口　覚
山﨑孝史　横山　智　吉田容子

監事　秋山道雄　内田忠賢

2023/24 年度 人文地理学会 常任委員 （報告）

（任期：2023年 定時社員総会～2024年 定時社員総会）

庶務委員会： 吉田容子* **北西諒介** 薬師寺浩之

会計委員会： 加藤政洋* 前田一馬 **森田耕平**

編集委員会： 藤井 正* 濱田琢司（編集副委員長） **新井祥穂** 石﨑研二
伊藤千尋 **稲垣 稜** **大平晃久** **小泉佑介** 杉浦真一郎
塚本僚平 **中川秀一** 福本 拓 **古田 昇** 堀 健彦
三木理史 **水野真彦** 山本理佳

集会委員会： 河原典史* 飯塚公藤 **木村大輔** 芝田篤紀 **花木宏直**

企画委員会： 山﨑孝史* **古関喜之** **関戸明子** 竹中克行

広報委員会： 山﨑孝史* **荒堀智彦** 畠山輝雄

（＊は常任理事、下線は留任委員、太字は新任委員、新任委員は次年度原則再任）

＜収入の部＞

科目	2022/23年度 予算	2022/23年度 決算	執行率	差額
会費	¥11,000,000	¥10,787,038	98.1%	¥-212,962
出版物売上	¥800,000	¥680,990	85.1%	¥-119,010
雑収入	¥200,000	¥145,725	72.9%	¥-54,275
大会収入（参加費・広告）	¥500,000	¥1,032,500	206.5%	¥532,500
受取利息	¥1,000	¥335	33.5%	¥-665
未払い費用（選・名）	¥0	¥0	100%	¥0
計	¥12,501,000	¥12,646,588	101.2%	¥145,588

＜支出の部＞

科目	2022/23年度 予算	2022/23年度 決算	執行率	差額
雑誌生産費	¥4,000,000	¥3,810,704	95.3%	¥189,296
雑誌期首棚卸高		¥1,053,327		
雑誌期末棚卸高		-¥1,285,533		
編集費	¥120,000	¥191,207	159.3%	¥-71,207
雑誌発送費	¥640,000	¥597,631	93.4%	¥42,369
集会費	¥200,000	¥148,753	74.4%	¥51,247
大会開催費	¥900,000	¥1,500,062	166.7%	¥-600,062
研究部会運営費	¥400,000	¥205,321	51.3%	¥194,679
給料手当	¥2,500,000	¥2,862,264	114.5%	¥-362,264
保険料	¥400,000	¥400,618	100.2%	¥-618
旅費・交通費	¥200,000	¥165,748	82.9%	¥34,252
通信費	¥400,000	¥309,707	77.4%	¥90,293
顕彰事業費	¥50,000	¥58,470	116.9%	¥-8,470
企画・広報事業費	¥10,000	¥56,385	563.9%	¥-46,385
会合費	¥30,000	¥13,690	45.6%	¥16,310
選挙費	¥0	¥0	-	¥0
選挙費積立金	¥100,000	¥100,000	100.0%	¥0
諸印刷費	¥30,000	¥19,800	66.0%	¥10,200
名簿作成発送費	¥0	¥0	-	¥0
名簿作成発送費積立金	¥100,000	¥100,000	100.0%	¥0
消耗品費	¥250,000	¥117,132	46.9%	¥132,868
機械借上費	¥100,000	¥56,050	56.1%	¥43,950
室料（家賃・光熱費）	¥1,267,000	¥1,250,470	98.7%	¥16,530
相談手数料	¥100,000	¥131,249	131.2%	¥-31,249
寄付金	¥100,000	¥100,000	100.0%	¥0
若手研究者国際会議派遣助成	¥400,000	¥400,000	100.0%	¥0
租税公課	¥70,000	¥70,000	100.0%	¥0
諸会費	¥50,000	¥50,000	100.0%	¥0
雑費	¥30,000	¥30,240	100.8%	¥-240
予備費	¥54,000	¥0	0.0%	¥54,000
計	¥12,501,000	¥12,513,295	100.1%	¥-12,295

収支差額	¥0	¥133,293		

＜繰越金＞

前期末純資産額	¥33,835,354
今期末純資産額	¥33,968,647

一般社団法人人文地理学会　2023/24年度 予算

＜収入の部＞

科目	2023/24年度 予算
会費	¥11,000,000
出版物売上	¥700,000
雑収入	¥150,000
大会収入（参加費・広告）	¥800,000
受取利息	¥500
未払い費用（選・名）	¥200,000
計	¥12,850,500

＜支出の部＞

科目	2023/24年度 予算
雑誌生産費	¥4,000,000
編集費	¥150,000
雑誌発送費	¥640,000
集会費	¥200,000
大会開催費	¥1,000,000
研究部会運営費	¥400,000
創立記念事業費	¥80,000
給料手当	¥2,500,000
保険料	¥450,000
旅費・交通費	¥200,000
通信費	¥300,000
顕彰事業費	¥50,000
企画・広報事業費	¥60,000
会合費	¥30,000
選挙費	¥200,000
選挙費積立金	¥0
諸印刷費	¥20,000
名簿作成発送費	¥300,000
名簿作成発送費積立金	¥0
消耗品費	¥80,000
機械借上費	¥100,000
室料（家賃・光熱費）	¥1,260,000
相談手数料	¥100,000
寄付金	¥100,000
若手研究者国際会議派遣助成	¥400,000
租税公課	¥70,000
諸会費	¥50,000
雑費	¥50,000
予備費	¥60,500
計	¥12,850,500

収支差額	¥0

決　算　報　告　書

第 9 期

自 2022年10月 1日

至 2023年 9月30日

一般社団法人人文地理学会

京都市左京区吉田河原町14番地
近畿地方発明センター合同ビル内

貸 借 対 照 表

2023年 9月 30日　現在

一般社団法人人文地理学会　（単位：円）

資産の部		負債・純資産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
現金及び預金	31,516,626	預り金	89,442
会誌	1,285,533	選挙費積立金	100,000
仮払金	55,930	名簿作成発送費積立金	100,000
流動資産合計	32,858,089	流動負債合計	289,442
		負債の部合計	289,442
【固定資産】			
投資その他の資産		純資産の部	
保証金	1,400,000	基金	0
その他固定資産合計	1,400,000	剰余金	33,968,647
固定資産合計	1,400,000	純資産の部合計	33,968,647
資産合計	34,258,089	負債及び純資産合計	34,258,089

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成している。

②資産の評価基準及び評価方法

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

会誌：最終仕入原価法による原価法

損　益　計　算　書

自2022年10月1日　　至2023年9月30日

一般社団法人人文地理学会　　（単位：円）

科　目	金額	
（経常損益の部）		
【経常収益】		
受　取　会　費	10,787,038	
事　業　収　入	680,990	
受 取 負 担 金	1,032,500	
財　務　収　益	335	
その他　収　益	145,725	
経常収益計		12,646,588
【経常費用】		
（事業費）		
期首会誌棚卸額	1,053,327	
会 誌 生 産 費	3,810,704	
期末会誌棚卸額	▲ 1,285,533	
大 会 開 催 費	1,500,062	
顕 彰 事 業 費	58,470	
若手研究者国際会議派遣助成事業費	400,000	
事業費計		5,537,030
（管理費）		
給　料　手　当	2,862,264	
保　　険　　料	400,618	
集　　会　　費	148,753	
編　　集　　費	191,207	
研究部会運営費	205,321	
旅 費 交 通 費	165,748	
通　　信　　費	309,707	
雑 誌 発 送 費	597,631	
企画・広報事業費	56,385	
会　　合　　費	13,690	
選挙費積立金繰入	100,000	
諸　印　刷　費	19,800	
名簿作成発送費積立金繰入	100,000	
消　耗　品　費	117,132	
賃　　借　　料	56,050	
地　代　家　賃	1,250,470	
租　税　公　課	70,000	
相 談 手 数 料	131,249	
寄　　付　　金	100,000	
諸　　会　　費	50,000	
予　　備　　費	0	
雑　　費	30,240	
管理費計		6,976,265
経常費用計		12,513,295
経常利益		133,293
（経常外損益の部）		
【経常外収益】		
選挙費積立金取崩額	0	
名簿作成発送費積立金取崩額	0	
経常外収益計		0
当期純利益		133,293

附　属　明　細　書

2023年 9月30日　現在

一般社団法人人文地理学会

1.　引当金の明細　（単位：円）

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
選挙費積立金	0	100,000	0	100,000
名簿作成発送費積立金	0	100,000	0	100,000

2023年10月7日

監　査　報　告

一般社団法人 人文地理学会

監事 秋山道雄

監事 内田忠賢

2022/23年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1　監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、庶務委員会、会計委員会の分野を中心に調査を行い、その結果を監事間で協議して、監査を実施しました。

具体的には、理事会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、会計書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について定期的に報告を受け、また、随時説明を求めました。

2　監査の結果

(1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。

(2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の決議の内容は相当です。

(4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

以上